

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	青年の家管理運営事業				担当部	こども未来部				
	会計区分	一般会計		事業類型	一般事業		担当課	こども政策課			
	事業期間	平成22年度		～	平成31年度以降		担当係	青少年育成係			
	総合計画 新基本計画	施策等	3 教育・子育て		13 子育て支援		4 健全な青少年を地域で育てます				
			重点事業		実施計画事業						
	予算区分	款	10	項	5	目	4	大	2	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市青年の家等の設置及び管理に関する条例									
	目的	何・誰を対象に	青少年及び青年の家利用団体								
		どのような状態にするのか	市民が利用しやすいよう施設整備の管理をするとともに、青少年の仲間づくりを通じて、友愛の精神を涵養したり、ボランティア活動に目を向けることを目指して、より多くの青少年の参画を図る。								
	内容(手段) 目的達成のためにどのような事業を実施したか	<p>◆27年度の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の管理とともに、青少年講座の企画・運営を指定管理。</li> <li>サークル活動等への支援。青少年団体1、青少年育成団体7、生涯学習団体5の合計13団体を青年の家登録団体として、使用料の一部免除を行っている。</li> <li>不登校の悩みを抱える児童生徒の適応指導教室(学校教育課主管)への協力・支援を行った。</li> <li>青少年の健全な成長と地域に役立つ人材の育成を目指し、青年講座を5講座(ストリートダンス、ヨガ、護身術、ゆかたの着付け、和太鼓)を開催。40人(延べ115人)の受講。親子講座を6講座(コスメ作り(春と冬2回)、クイズで小牧山探検、クラフトバンド、秋を楽しもう、グラスアート)を開催。63組143人の受講。、ジュニアセミナー5講座(和太鼓、よさこい、キャンプ、キッズダンス、シーサー作り)を開催。115人(延べ530人)の受講。</li> <li>青少年講座修了後に結成された同好会に発表の場を提供するとともに、「青年の家フェスティバル」を開催し、青少年活動の交流を深めた。</li> </ul> <p>参加団体:発表8、展示1、体験1計10団体、来場者数:約300人(主演者含)</p> <p>「寺子屋」を夏休みの6日間、春休みの4日間開催し、安心して勉強や遊びに集中することができるよう、こどもの居場所づくりを実施。合計46人の利用。</p> <p>◆27年度直接経費の内訳 管理運営委託料(26,434千円) 負担金等(5千円)</p> <p>◆その他財源の内訳 青年の家使用料(702千円) 資料複写代金(42千円)</p> <p>◆28年度直接経費の内訳 管理運営委託料(27,316千円) 創垂館現況調査委託料(1,500千円) 負担金等(57千円)</p>									
受益者負担	有 施設使用料、資料複写代金										

コスト	費用			単位	H25決算額	H26決算額	H27決算額	H28予算額
		直接経費		千円	23,938	25,113	26,439	28,873
費用	正職員	従事者数	人	0.20	0.20	0.20	0.20	
		人件費	千円	1,100	1,100	1,100	1,100	
	その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	
		人件費	千円	0	0	0	0	
	費用合計	千円	25,038	26,213	27,539	29,973		
	対前年比	%		104.6	105.0	108.8		
財源	一般財源	千円	24,199	25,501	26,795	29,365		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	839	712	744	608		

業	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	績	開館日数	日	目標	307	307	308
実績				308	308	310	
業	講座開催回数	回	目標	40	40	40	40
			実績	61	41	51	
績	成果指標名	単位		H25	H26	H27	H28
			青年の家利用件数	件	目標	—	—
業	講座参加者数	人	目標	—	—	—	—
			実績	618	172	302	

事業の自己評価	平成27年度の実施結果	
	事業の達成状況	・青年対象講座、親子対象講座、青少年育成事業等の支援としてのジュニアセミナーを開催し、26年度を上回る参加者数(受講者数)を得ることができた。
	事業実施における課題	・青年対象講座の参加者数が減少にあり、小学生とその保護者を対象とした親子講座や、小中学生を対象としたジュニアセミナーに講座の中心が移行してきている。 ・ボーイスカウト利用の減少や、サークル・減免団体自体の会員減少が進んでいるため利用件数が減少している。
	事業を縮小・廃止したときの影響	安価で宿泊が可能なため、共同生活を伴う青少年の仲間づくりや、自主的な活動の場を提供することが出来なくなる。
	平成28年度の改善内容	28年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)
平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	維持 事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	青年の家フェスティバルの場で団体同士の交流を図り、活性化に向けてPRを行っている。しかし、会員獲得や活動の充実化としては細々としたものである。青年層を中心とした活動は年齢とともに縮小へ向かっていく傾向であるが、下記の改善案の検討、実施を含め維持と判定した。
	29年度以降の改善案	親子対象講座やジュニアセミナーが定着してきているので、受講した小中学生が次代の青年活動を荷えるようなプログラムと、そこに現在の活動グループが指導育成の立場として交流または連携を図ることができるよう検討していく。

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。 引き続き指定管理者のモニタリングに努め、利用者アンケート結果を活かすなど利用者の満足度が高まる施設運営に努めること。